









<h2>既導出の意思表示行動メカニズムの精緻化: 10府県における臓器提供に関する態度・行動についての調査結果</h2>								
								
<p>2023年5月10日 同志社大学 商学部教授/ソーシャルマーケティング研究センター長 厚労科研「行動科学を基盤とした科学的根拠に基づく臓器・組織移植啓発モデルの構築に関する研究」研究班 瓜生原 葉子</p>								

<h3>目的</h3>	
<ul style="list-style-type: none">● 本一連の研究の目的は、臓器提供数が少ない、啓発が活発でない地域においても活用され、効果的な啓発活動を可能とする啓発プロセスを開発し、『科学的根拠に基づく地域連携・啓発マニュアル』を作成することである。● その1年目の2022（R4）年度は、既導出の意思表示行動メカニズムを精緻化すること、科学的根拠に基づき実施された既存の啓発プロセスを検討・精緻化することを目的とした。さらに、これらを含む啓発マニュアルの作成に着手することを目標とした。	
<p><u>本研究の目的</u></p> <ul style="list-style-type: none">● 本研究の目的は、既導出の意思表示行動メカニズムを精緻化することである。	

調査方法 (2) 定量調査方法、分析方法



- 対象：10都道府県の一般14,562名（15歳～95歳）
- 調査項目は、表のとおり。

変数	次元	数	概要	回答形式
成果変数	行動変容ステージ	1	関心度、意思決定、行動意図、行動	7段階
移植関連 要因	関心理由	1	保険証、免許証、イベントなど	選択肢
	媒体の認知度	5	各法的意思表示媒体の認知度・表示率	3段階
	認知度	4	移植関連の認知状況	2段階
	知識	10	移植の現状、提供条件など	3択
	臓器提供・移植への態度	4	提供・意思尊重有無など	4・5・6段階
	過去経験	10	当事者からの話し、家族との対話など	5段階
	提供/意思表示イメージ	10	ポジティブ、ネガティブ両面	5段階尺度
	無関心/意思表示不実施	15	抵抗感、不安感など	5段階尺度
特性	個人特性	4	性別、年齢、居住地、職業	

- 分析：統計ソフトSPSS（IBM Statistics ver.29）を用いて、集計ならびに2群における両側t検定を実施（有意水準 $p < 0.05$ ）。

調査結果：主要項目概要



- 意思表示率は10.2~15.3%
- 意思表示率と臓器提供者数に相関は認められなかった
- 意思決定から意思表示は約5割

都道府県	岡山	沖縄	静岡	富山	長崎	岩手	広島	京都	福島	長野
分析対象者数	1424	1389	1440	1328	1405	1416	1415	1881	1447	1417
人口(千人)	1,945	1,393	3,765	1,093	1,427	1,330	2,861	2,636	2,029	2,152
過去5年の平均提供者数 (pmp)	8.74	7.90	7.44	6.40	5.61	5.26	4.89	2.66	1.48	1.39
意思決定率	25.2%	28.6%	23.0%	20.3%	25.9%	27.1%	23.5%	22.3%	23.6%	25.8%
意思表示率	12.9%	15.3%	11.7%	10.2%	13.0%	13.8%	11.6%	12.0%	12.8%	13.5%
意思表示段階の平均値	2.64	2.93	2.59	2.44	2.75	2.78	2.57	2.56	2.66	2.75

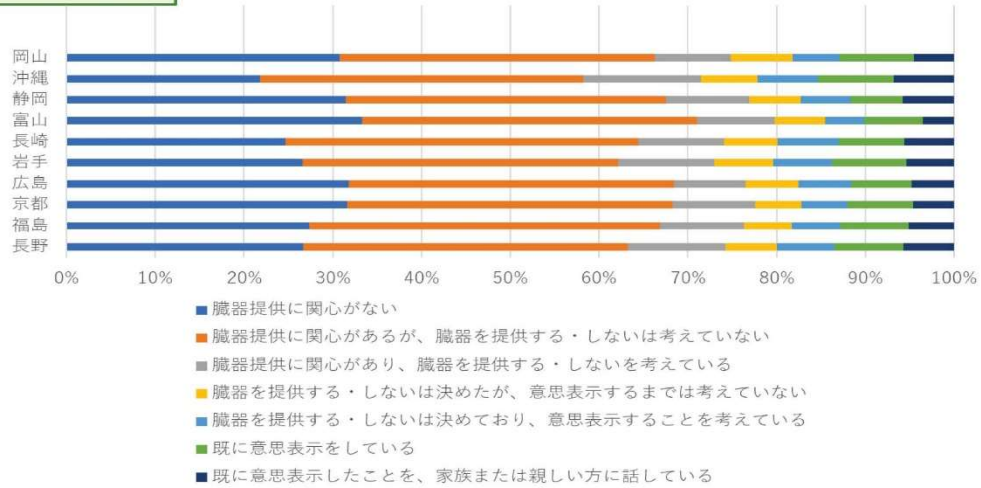
調査結果: 意思表示に関する行動変容段階

The Social Marketing
Research Centre
Doshisha University



- 関心はあるが、考えていない人が多い

各地域における意思表示に関する行動変数段階



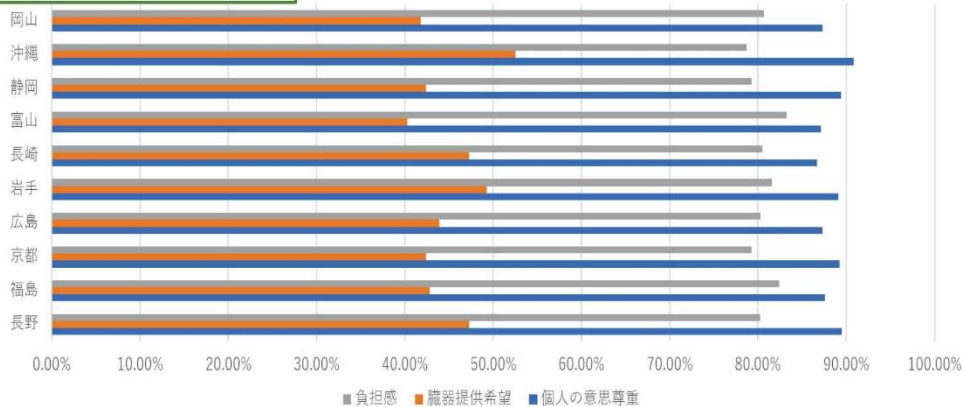
調査結果: 臓器提供に関する態度

The Social Marketing
Research Centre
Doshisha University



- 自身の臓器提供意図は、40.3% (富山県) ~ 52.5% (沖縄県)
- 8割が負担感を感じ、9割は故人の意思を尊重したいと思っている

臓器提供・意思表示に関する態度

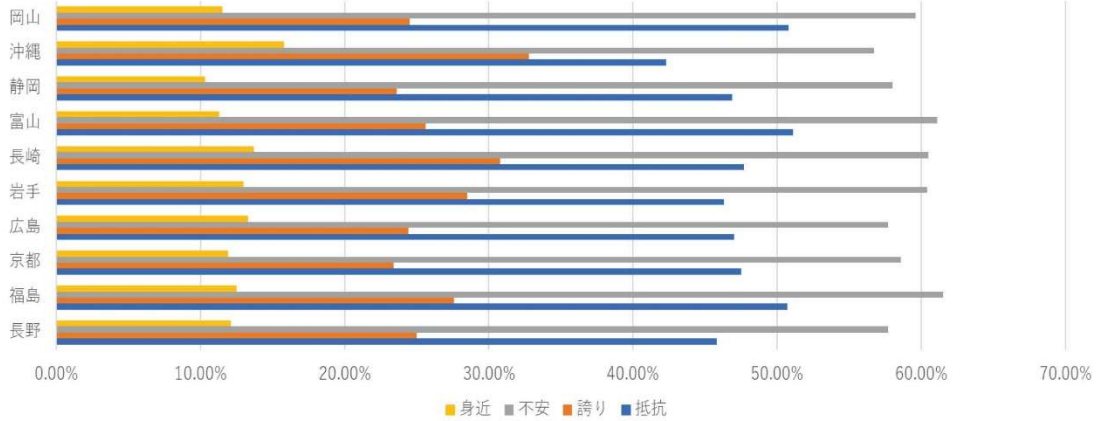


調査結果：臓器提供に関するイメージ



- 不安・抵抗感が高い
- 誇りが少ない

臓器提供・意思表示に関する態度

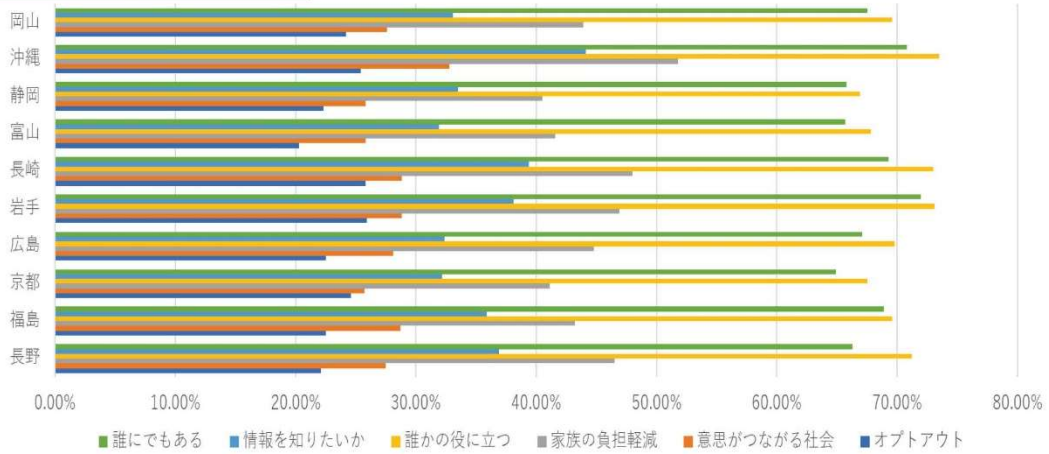


調査結果：臓器提供、移植に関する態度



- 家族の負担減につながることを認識が5割以下

臓器提供・意思表示に関する態度

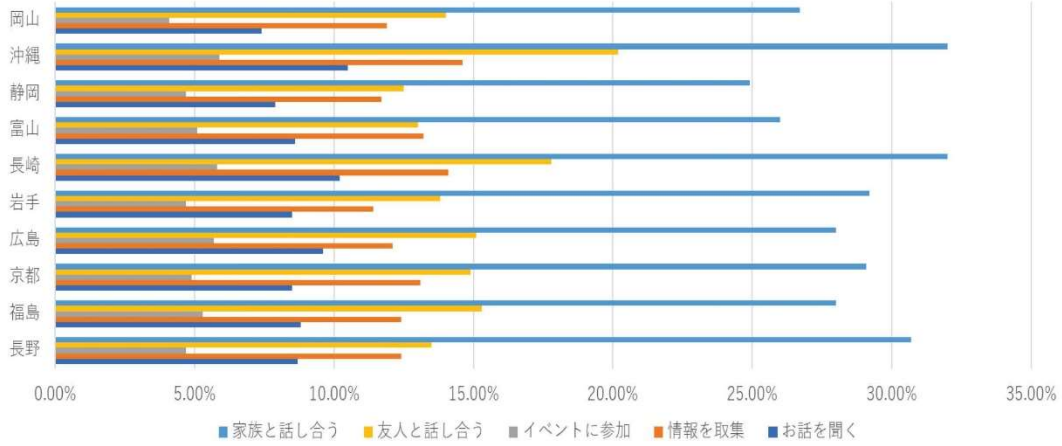


調査結果:移植に関連する過去経験(1)



● 家族との対話は約3割

臓器提供・意思表示に関する態度

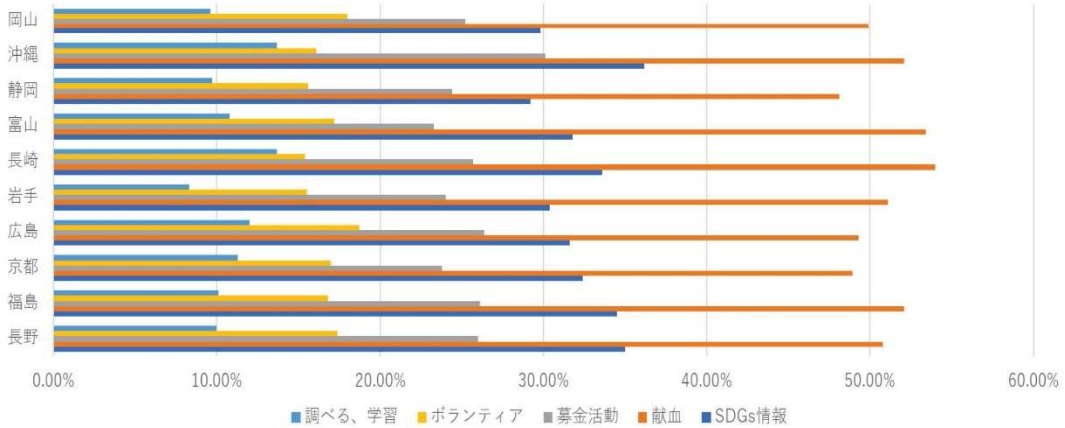


調査結果:移植に関連する過去経験(2)



● 献血が約半数

臓器提供・意思表示に関する態度



調査結果:知識に関する正解率



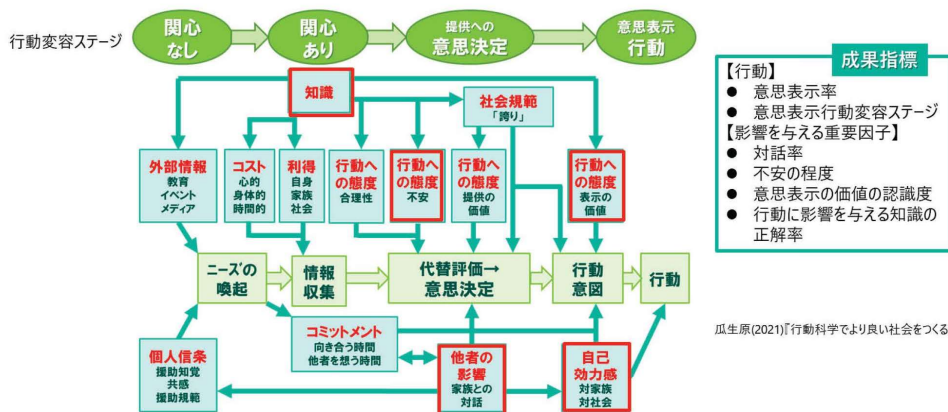
n数	1,424	1,389	1,440	1,328	1,405	1,416	1,415	1,881	1,447	1,417
都道府県	岡山	沖縄	静岡	富山	長崎	岩手	広島	京都	福島	長野
意思表示は書き直しできる	60.0%	57.1%	54.4%	56.6%	58.0%	53.7%	57.7%	58.6%	56.9%	59.5%
提供したくないとの意思表示を行うことができ	76.5%	74.2%	72.8%	71.5%	73.6%	73.2%	73.6%	74.4%	74.7%	72.9%
脳死になると回復することはない	43.3%	37.1%	43.1%	41.0%	41.4%	44.8%	41.1%	42.9%	42.9%	41.6%
臓器を取り出しても複数の傷ができることはな	17.3%	14.5%	15.0%	14.4%	14.9%	14.5%	16.0%	17.3%	14.3%	16.7%
臓器提供後のお身体は3時間から6時間で家族	17.7%	13.8%	15.9%	16.5%	15.0%	16.7%	17.3%	19.5%	14.9%	17.4%
のもとにかえってくる										
15歳未満でも臓器提供可能である。	34.9%	27.9%	28.7%	29.7%	34.4%	31.6%	33.0%	32.6%	32.2%	32.4%
日本の臓器提供数は、欧米諸国と比べて少ない	71.4%	66.7%	69.4%	70.3%	70.2%	67.2%	68.4%	69.9%	69.6%	71.2%
臓器移植を受けた患者のうち、移植された臓器										
が一定期間後に体内で機能している者の割合	17.3%	11.4%	14.2%	14.2%	15.0%	14.5%	15.0%	15.6%	13.4%	14.1%
は、日本は海外と比べて高い										
植物状態は回復する可能性があり、脳死とは異	37.0%	31.7%	35.9%	32.5%	33.5%	31.6%	34.6%	34.8%	32.1%	34.5%
なる病態である										
臓器提供をするかどうかについて、最後は家族	44.0%	43.1%	44.9%	42.8%	42.8%	44.2%	44.6%	41.4%	43.4%	43.2%
が意思決定する										

『行動科学を基盤とした科学的根拠に基づく移植啓発モデル』で重要なこと

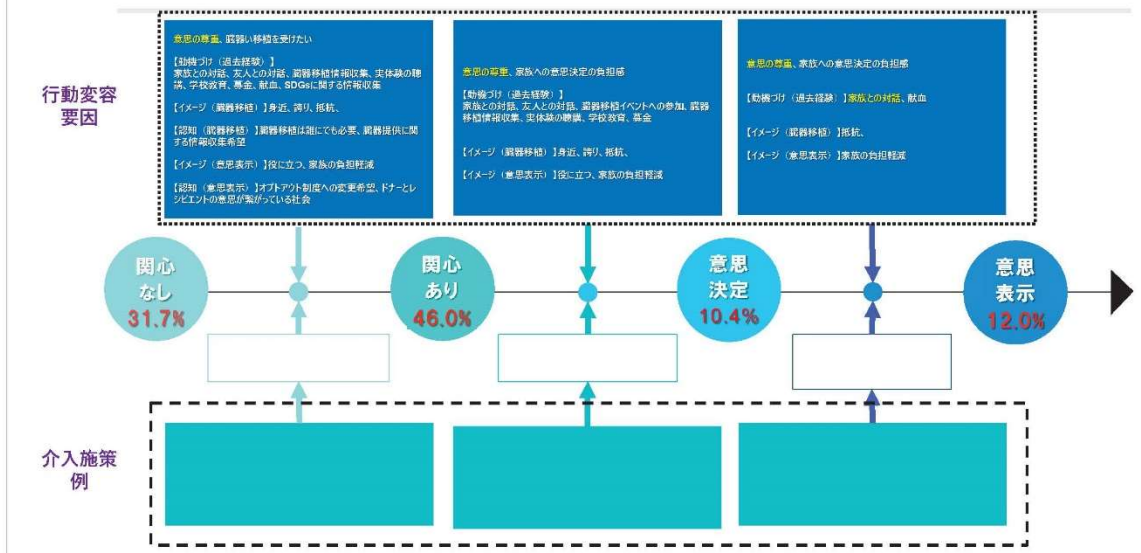


行動変容メカニズムに基づく啓発の必要性

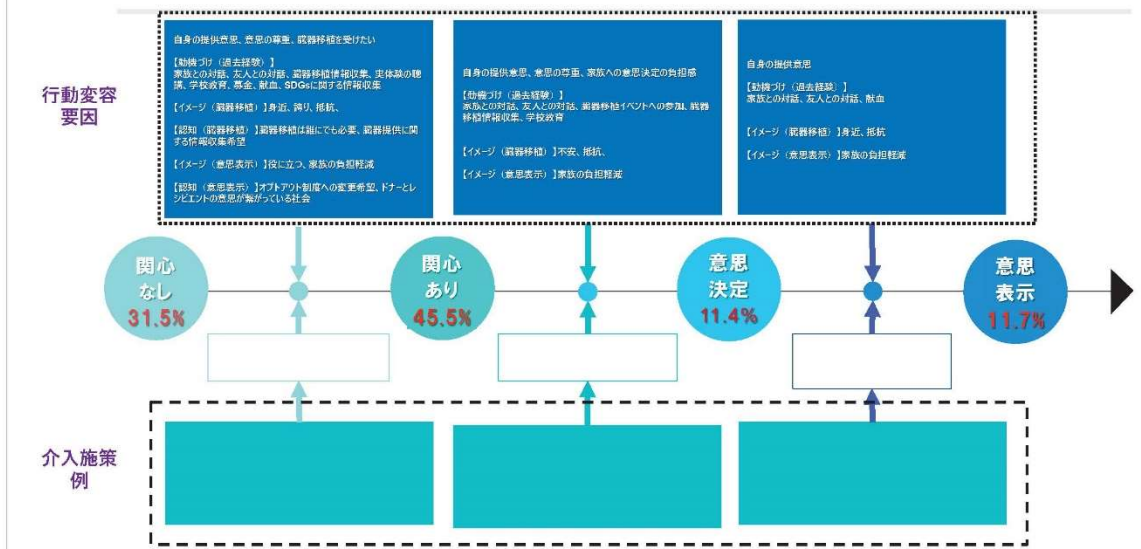
- 2021年の世論調査において、臓器提供に関心がある人は65.5%に対して意思表示は10.2%であった。このギャップを埋めるためには、Prochaska and DiClemente(1983)の行動変容モデルを適用し、どのような分布になっているのかを把握し、各人の行動を右に促進する考えが必要である。現在の関心度、行動のような集計では、行動阻害要因が把握できず対策がうてない。
- 5年間の仮説検証型実証研究により、臓器提供意思表示に至るまでの行動メカニズムを明らかにした(瓜生原, 2021)



調査結果:行動メカニズム図(京都)



調査結果:行動メカニズム図(静岡)





- outcomeとして、意思表示行動変容ステージを7段階で問っている。結果に示したとおり、関心あり率、意思決定率、意思表示率などを指標とすると、どこの層をターゲットにして啓発をすべきかが不明瞭になる。**アウトカム指標として、意思表示行動変容ステージが妥当**であることが示唆された。また、その**分布から、ターゲット層を選択する必要性**が示された。
- ソーシャルマーケティングに基づき考えると、競合行動（今は考えずにあとまわし）を超えて意思決定・意思表示を促すためには、行動障壁を除去し、価値を提供し、きっかけを与えることが必要である。
- **行動障壁**については、**臓器提供に対する不安・抵抗感**であることが考えられた。なぜなら、意思決定率・意思表示率・自身の臓器提供意図が10府県の中で最も低かった富山県で、不安、および抵抗感が高かったからである。既存の研究結果（瓜生原, 2021）からその相関が確認されており、これらの低減が不可欠であることが示唆された。
- それに影響を及ぼしている項目は何であろうか。その一つとして、**知識**が挙げられた。既存の研究結果（瓜生原, 2021）と同様に、傷が複数ではない、提供後のお身体は3時間から6時間で家族のもとにかえってくるに関する正答率が約15%と低く、これらの誤った知識の認識が、臓器提供の抵抗感や不安につながっていることが示唆された。



- **臓器提供の価値（意義）**としては、約9割が**家族の意思を尊重したい**と思ひ、約8割が**家族の臓器提供を決断することに対する負担感を感じている**ことに着目すべきと考える。また、意思表示の価値（意義）として、**意思表示は家族の負担を軽減することが重要**である。なぜなら、行動メカニズムにおける意思表示の促進因子として挙げられたからである。
- **行動のきっかけ（動機づけ）**としては、全てのステージで促進因子になっていた「**家族との対話**」が重要であることが示された。また、**献血**についても関心、および意思表示のきっかけになっていることが示されたため着目するのがよいと考えられた。
- 行動メカニズムについて、静岡県も含めて検討したところ、「**臓器提供への抵抗感の低減**」「**家族との対話機会**」「**意思表示は家族の負担軽減に役立つという気持ち**」は、両府県に共通の全段階の促進因子であった。したがって、これらを促進する介入が望まれる。
- 関心の惹起として、「**臓器を提供するという人の意思が、移植を受けたいという意思の人にきちんとつなげられていない**」ことに**着目する必要性**が示唆されたことが新しい発見であった。健康信念モデルや防護動機理論で示されているように、行動の惹起には、行動しないことの危機感を認知させることが必要である。そのうえで、意思決定や意思表示をすることの心的・身体的コストより価値・利益の方が大きいと感じ、その行動をとれる自信を醸成することが重要であると考えられる。



本調査の結果から、以下を提言したい。

- 臓器提供意思表示について、行動変容ステージに基づき考える。
- 意思決定・意思表示促進する共通因子である「抵抗感の低減（行動障壁の除去）」、「臓器提供の意思を表示することは、家族の悩みや迷いを少なくして、家族の負担を軽減することについての認知を促す（価値の提供）」「家族との対話経験（動機づけ）」施策に焦点を当てる。
- 抵抗感の低減については、誤って得ている情報を修正する。
- 意思決定・意思表示の価値の提供については、約8割が家族の臓器提供の意思決定に負担を感じていること、約9割が家族の意思決定を尊重したいと思っていること、意思表示は家族の負担を軽減することについて周知する。
- 家族との対話経験については、あらゆる場面で対話のきっかけをつくる（「対話をしよう」とのよびかけでは不十分）。